

第8弾 石狩市内コンビニ・スーパー等の商店への依頼活動実施!

平成30年6月25日~29日



石狩市内の全コンビニ・スーパー等の商店へ「たのんます」パンフの配布と、PAIサポーターステッカーの店頭貼りへの協力依頼活動を石狩市手をつなぐ育成会、石狩市障がい者支援センター保護者会の皆さん延べ24名の参加で行いました。石狩市内の訪問させていただいたお店は、セブンイレブン（花川南1条店・花川南3条店・花川南店・花川南5条店・花川南7条店・花川北3条店・ばんなぐろ店・新港南店・新港西店）、セイコーマート（うえだ店・南5条店・花川南店・花川南9条店・花川北2条店・花川北4条店・花畔店・新港中央店・新港西店・新港南店・緑苑台店・新港西1丁目店）、ローソン（花川北店・花川南9条店・新港西3丁目店）、はまなすクラブ（花川南2条店・花畔店）、サンクス石狩花川東2条店、はやしや商店、イオンスーパーセンター石狩緑苑台、Coop札幌石狩店、北海道三喜いしかり店、メガネサロニック、キャンドゥ、長谷川時計店、セカンドストリート、レフボン、ホームック花川店、ビックハウス花川店、カインズホーム石狩店、ラルズマート花川南店、ラッキー花川南店、スーパーエース花川店、くすりのツルハ樽川店・花川北店・花川南店、ほっともっと樽川店・藤学園前店、Book・NET・ONE石狩樽川通店、しまむら石狩店、ビックリッキー石狩店、くつのウエダ・ウッキー、ダイソー樽川店、オフハウス石狩店、ヤマダ電機石狩店、カインズホームFC花川店の各店です。皆さんご協力ありがとうございます。

石狩市地域自立支援協議会市民報告会 2018.11.20 地域づくり・地域活動シンポジウム 「いしかりってどんな“マチ”？」開催される!



去る平成30年11月20日に、石狩市地域自立支援協議会市民報告会 地域づくり・地域活動シンポジウムが開催されました。メインテーマは「いしかりってどんな“マチ”？」ということで、シンポジストとして、P&Aいしかりから佐々木公子世話人代表が登壇し、これまでのP&Aいしかりの活動紹介をおこないました。

他シンポジストに、いしかり医療と福祉のまちづくり広場（金木 渉氏）、特定非営利法人ジェルメ・まるしえ（理事長 新田大志氏）、社会福祉法人せらび千歳地域生活支援センター（センター長 奥貴あい子氏）、社会福祉法人石狩市社会福祉協議会（生活支援コーディネーター工藤順也氏）が登壇し、障がい者相談支援センター夢民の地域づくりコーディネーター戸田健一氏がコーディネートされ、各取り組み紹介がされました。その後、「こんなふれあい、こんなサービス、こんな仕組みがあったらなー」をテーマにグループワークが進められました。今回、同じ福祉の分野でもお互いの活動が知らないことが多く、横つながりや情報交換と連携をもっと大事にしていかなければと感じる機会となりました。

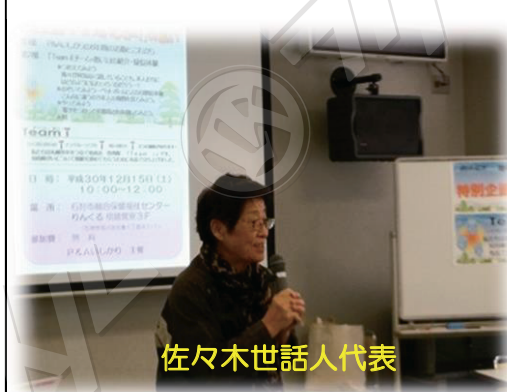
P&Aいしかり 活動広報 第24号 2019年1月15日

どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！
障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

P&Aいしかり事務局 <http://p-a-ishikari.jimdo.com/>
石狩市障がい者支援センター（石狩市樽川519-2）
TEL 0133-73-8868 FAX 0133-73-8869
発行責任者 佐々木公子



地域を障がいのある方への良き理解者・サポーターに!! 2018.12.15 特別企画「P&Aいしかり」の集い開催報告!



佐々木世話人代表



去る平成30年12月15日（土）石狩市総合保健福祉センターりんくる 視聴覚室3Fにおいて、特別企画「P&Aいしかり」の集いが29名の参加で開催されました。角田世話人の司会で、冒頭、P&Aいしかりの佐々木世話人代表から、「2001年PA北海道が発足し、勉強会に石狩から参加したり、SOSコールなど障がいのある人のためのセーフティネットに一人関わってきました。その後、賛同を得て、何とか石狩にP&Aいしかりを立ち上げることができました。あっという間の8年でした。発足後すぐに東北の震災がありました。それでも少しずつ進むしかないと思いつつ活動してきました。ここにいる数名の世話人と活動に呼びかけたら多くのサポーターが参加していただき、中央バス営業所や石狩市内の派出所、さらにコンビニ、スーパーなどを訪問して、障がいのある人のためのよき理解者、サポーターになっていただくよう、訴えてきました。また、サポーターマークを多くのお店に貼っていただきました。チーム・あいさんの「あたかかく見守って下さい」の資料にもあるように、まさに地域でどんな障がいのある人に対しても、見守ってもらって、ほっとするというか、いろんなことがあるかもしれないですけど、少しずつ前に進んでいきたいと思います。PAIとチーム・あいさんとは相通じるものがありますので、この機会に何か刺激をもらって前に進みたいと思いますので、宜しくお願いします」との挨拶がありました。

第1部ではP&Aいしかりの8年間の活動をスライド上映により振り返りました。これまでの活動は以下の通りです。

1. コンビニ・スーパー等の依頼活動
2011年8月には石狩市内のすべてのコンビニ、スーパーへのステッカー依頼と「たのんます」パンフ配布活動を開始。
2011同年10月には石狩市内各病院への協力依頼活動（医療パンフ配布）
2012年6月には石狩花川南・北交番、石狩市内駐在所（八幡、石狩、望来、厚田、柏木、浜益）への協力依頼訪問（P&Aサポートファイル持参）
2012年6月・7月には石狩市内の歯科医院に医療パンフ配布活動
2012年9月には石狩消防署・中央バス石狩営業所訪問
2013年から毎年6月頃に石狩市内コンビニ、スーパーへの依頼活動をおこなっており、今年で第8弾の依頼活動となりました。
2. 石狩市民生委員児童委員障がい者福祉部会との懇談
2013年6月
2015年3月
2017年4月

**P&Aいしかり設立準備会
2010年12月9日
活動速報**

第1弾 パンフ配布・協力店依頼活動
「障がいのあるひとの、サポーターのお店になって下さい!」
どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい! 障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい!

P&Aいしかり設立準備会では、12月9日から9日までの期間、準備会の6日と9日、第1弾の活動を行いました。石狩市内すべてのコンビニ・スーパー等の対応、知識・経験のない方を抱える人たちの行動の補助をイラストで分かりやすく紹介した「たのんます」知識・経験のある人のサポーターのお店」パンフの配布とサポーター協力店依頼活動を行いました。

各店の目標は、代り時期等にもかかわらず早く対応していただきました。詳細については別途、報告させていただきます。

12月8日行動
12名参加

12月9日行動
14名参加

訪問先: セブンイレブン、セイコーマート、ラッキー、はやしや商店、がらへ、しまむら、セブンイレブン、セイコーマート、中央バス、ローソン、入付、ヤマダ電機、Off House

3. 集い・学習会等の開催

- 2012年 3月29日 「札幌白石区 姉妹孤立死問題わが街いしかりで共に考える集い」開催
- 2012年11月 8日 「第2弾孤立死問題わが街いしかりで共に考える集い」開催
- 2013年 7月11日 「地域での暮らしを共に考える集い」～僕たちの結婚。そして、伝えたいこと～
(上原真治さん、祐子さんご夫婦をお招きして)
- 2013年12月 4日 「これって虐待？虐待の芽？共に考える集い」開催
- 2014年 9月25日 西村弁護士成年後見学習会共催
- 2016年 3月12日 性加害者再犯防止に向けた支援者研修 (SOTSEC-ID)
- 2016年 3月13日 トラブルシューター養成セミナー（基礎コース）
- 2017年 2月22日 認知症サポーター養成出前講座
- 2017年 6月29日 「相模原障がい者殺傷事件を共に考える集い」
- 2018年 3月17日 「子どもの居場所づくりを共に考える集い」

4. 自主映画上映会

- 2015年10月12日 映画「降りてゆく生き方」自主上映会
- 2017年11月26日 映画「さとにきたらええやん」inいしかり自主上映会

5. 活動広報の発行

- 2010年12月 9日 PAI 活動速報創刊号発行
 - 2018年 4月20日 PAI 活動広報23号発行
- 計23回発行



いくせいかいの | インクルーシブの | あい(愛)の | 3つの意味があります！

私たちは札幌市手をつなぐ育成会 啓発隊 「Team i」です。
知的障がいについて理解を深めてもらうために有志で立ち上げました。

第2部は、札幌市手をつなぐ育成会啓発隊「Team i」(チーム・あいの)紹介と疑似体験のプログラムで、まず初めに代表の深見沢さんから「Team i (チーム・あい)」について、沿革と活動の紹介がありました。

平成27年に栃木でおこなわれた権利擁護セミナーに奈須野前会長が参加し、知的障がい・発達障がいのことがわかりやすく、面白く伝える「ピース&ピース」のアクションに出会い、翌年の札幌育成会総会後のアクションに「ピース&ピース」を招きました。その後、札幌市各区保健福祉新任職員研修の講師依頼があり、啓発隊として参加したことが札幌での啓発隊を立ち上げるきっかけとなりました。これまで区の職員研修や小学校での公演をはじめ、各地域に出向いて啓発活動を旺盛にされていることが報告されました。

その後、疑似体験の公演がはじまりました。知的障がい、発達障がいについての説明がされ、「言葉が伝わらない不安」や「わかりづらさ」「手ががぶきょうなこと」「知覚や聴覚が過敏による暮らしにくさ」など、いろいろな不便さや、不自由さがあること。何を話しているのかわからない。自分の思いを相手にうまく伝えることができず、違った応えが返ってくる場合があります。そうした体験をということで、疑似体験プログラムが始まりました。

1. つたえてみよう

Team i のマスコットキャラクターのクリンとオネの妖精が登場し、会場から選ばれた参加者にクリオネ語でいろいろと伝えますが、何を話しているのか、何をしたいのかわかりません。理解されず、絵カードで伝えたりしました。なかなかうまく伝わらない、言葉がわからないことからくる「さみしさ・苦しきさ・つらさ」それに対応する側の「怒る・大勢で言う・早口・大声・しつこく何回も言う」NG集や「ジャスチャー・絵カード・写真・実物」などのサポート方法などの説明がありました。

2. かいてみよう

参加者各自が、「りんご」「ちょっと」「ボール」「ちゃんと」の4つのお題で、絵を描く課題に取り組みました。りんごやボールでは参加者それぞれいろいろな表現やイメージで描かれていました。



「ちょっと」「ちゃんと」では、曖昧な表現、抽象的表現で難しい課題でした。この体験から曖昧な表現、抽象的表現ではなく、理解しやすいための具体的な表現や提示が必要であることが説明されました。

3. のぞいてみよう

そこだけメガネ(ペットボトルを半分に切った口側部分)を使って、会場のスクリーンの一部に注目して、そこだけメガネで妖精クリンのイラストがいくつ見えたかの問題です。知的障がい、発達障がいの方の中には、一つのことに関心を持つと、

それ以外が見えないというそこだけメガネを付けた時と同じような視野になる場合があります。いま体験した見え方をしている場合もあるので、そうした理解をとの説明がありました。

4. やってみよう

軍手をはいて、制限時間15秒以内で、3カ所玉結びになったひもをほどこく体験でした。軍手をはいた状態では、なかなかうまくほどこけません。そんな中で、周りから「早く、早く」とせかされるとあせって、ますますうまくいきません。こうした体験を通して、障がい者の動作の状況やペースに合わせて、せかせすに見守ってあげることの大切さの説明がありました。

5. きいてみよう

3つの曲が混ざって同時に流され、その中の音楽を聞き分けるという体験でした。3曲を聞き分けてあてるのは難しい課題でした。健常者は必要な部分に焦点をあてて自然に聞き分けています。しかし、知的障がい、発達障がいの方の中には聴覚過敏で、ほとんど聞こえてこない低音やキーキーうるさい高音などすべての音がごちゃ混ぜに聞こえてしまう。通常、日常生活でも聞き流せる生活音がミックスして入ってしまう。それを軽減するのがイヤーマフで、高音と低音をカットして(すべての音を遮断するものではありません)、一般の人が聞こえる音域を集中して聞くことができるということが説明されました。会場の参加者もイヤーマフの体験をしました。

6. 体験談

体験談では、「つらくて、うれしかった事」と題して、ある日親子でバスに乗車していたとき、息子さんの独り言に前に座っていた男性が腹を立て、「何故バスに乗ってきた。バスから降りろ。こんな奴が事件を起こすんだ。病院に入れろ」と何度もしつこく言ってきました。すると一緒に乗っていた隣の若い女性が男性に「やめて下さい」行ってくれました。うれしかったです。女性にお礼を言おうとした時に、その女性が「英ちゃんだよ」と息子の名前を呼んでくれました。小学校の時、支援学級との交流で一緒に過ごしていたことで、困っていた私たち親子に声を掛けてくれたのかもしれない。そういうことってとても大切なことだと思います。その時の嬉しい気持ちを皆さんにお話ししたくて今日お話をさせていただきました。進行者からこの体験談は障がいを知っているか、知っていないか。理解しているか、理解していないかの違いによる出来事ではなかと話されました。その後、全国で60ヶ所以上で啓発隊立ち上がっている状況やヘルプマークの取り組み、そして、障がいがあっても「オンリーワンの素敵な個性」を持っていること。街中で私たちの子どものような特性を持った人を見かけたら、そっと見守り、「あたたかい無視」をしていただけたらと願っています。

締めに「Team i」(チーム・あいの)長江隊長(札幌育成会会長)から、今年は室蘭の公演で最後だねと言っていた時に、石狩市から入りましたとのことで、これが年内最後の公演となりました。これまで北海道育成会の各地での公演をしてきましたが、2月には清田区役所の全職員向けの3日間5コマの連続公演をおこない大きな経験となりました。その中で、1つのアンケートを通して、チームでいろいろと考えさせられることがあり、見直しをしたこと。公演後、小学校から感想がつづられた冊子の贈り物があり、とても励まされ、今後、小さいうちからの理解も大切であることを感じ、今後、小学校への啓発活動もさらに進めていきたいと考えています。とのお話がありました。

最後に、石尾世話人からの閉会挨拶で、ご自身の子育ての体験から、兄弟の友達と遊んでいる中で、遊べるようになっていったことから、小さいころからふれあいがら一緒に過ごす体験が大切であることを話され、また、チーム・あいの皆さんの公演に感謝の意をもって閉会の挨拶となりました。

